

カエルの調査

なぜカエルを調べるのか

カエルは、繁殖やオタマジャクシの成長のために水辺が、種類によって生活するために林が必要となります。また、林や水田に住むヘビの餌になります。生き物が住みやすい水辺や林とのつながりについて把握することができます。

アカガエル

体長4～8cm 体色は茶色または赤茶色。体は比較的細い。手肢に吸盤はない。

早春、湿田に産卵し、普段は林で生活します。このカエルを見つけることにより、水田・ため池・林が生き物にとって住みやすい健全な状態に保たれていることがわかります。

成体



卵

シュレーゲルアオガエル

春に水田で産卵し、普段は林で生活します。このカエルを見つけることにより水辺と広い林がつながっていることがわかります。

体長3～6cm 体色は黄緑色で、手肢に吸盤をもつ。鼓膜の部分は体色と同じ色である。



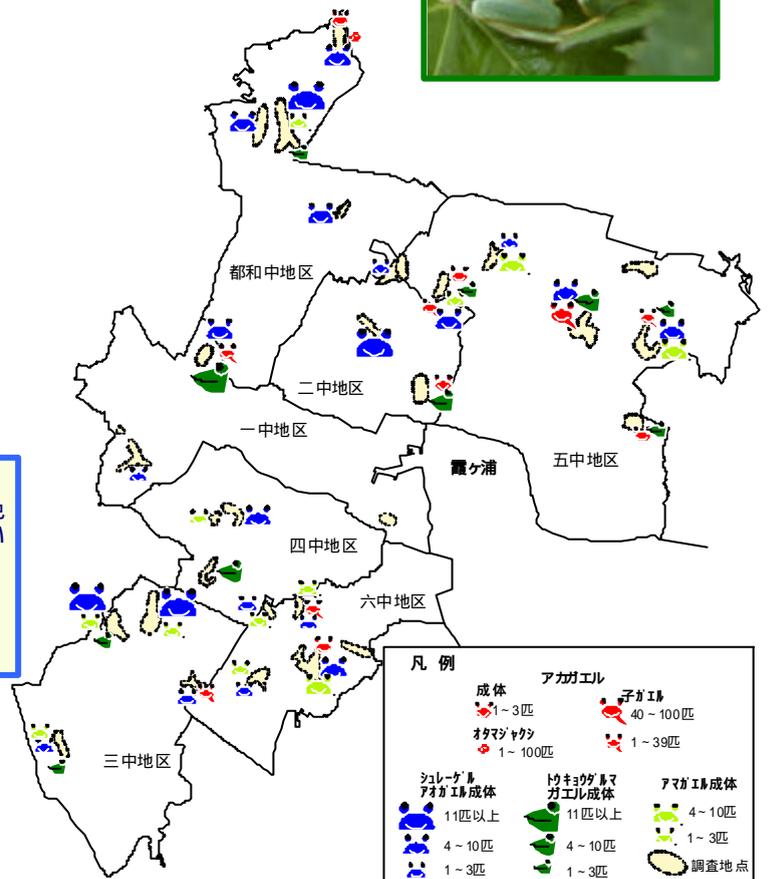
アマガエル

乾田化の影響を受けにくく、吸盤を持つためコンクリート水路でも大丈夫。開発に対してとても適応力のあるカエルです。このカエルが見られないような地域は、他の生き物にとっても大変住みにくい環境といえます。



体長2～4cm 周囲の状況に応じて体色が灰色になったり、暗い斑紋が出たりする。

鼓膜の部分が茶色である。



カエル類 分布図(5月調査)

トウキョウダルマガエル

水田環境に定着するカエルで、吸盤がないため、水路のコンクリート化などの影響で減少しています。このカエルを見つけることにより、水田や周辺の水辺に小型動物が生息できることがわかります。

体長4～8cm 背中に縦長の不規則なイボが並び、中央に線がある。体色は茶色と緑色が基本で個体により差がある。



カエル調査の結果

アカガエルの卵とオタマジャクシやシュレーゲルアオガエルの鳴き声は、多くの場所で確認されました。産卵のための水辺と生息環境である林が残されていることを示しています。トウキョウダルマガエルは、水路のコンクリート化などの影響で減少しているといわれていますが、10ヶ所で確認されました。水路と水田・ハス田が行き来できる構造が残されていることを示しています。